

【小学校第6学年の実践】

1 主題名

先人の努力を受け継ぐ【C 伝統と文化の尊重】

2 教材

アイヌ文化を守り抜く 萱野 茂（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

我が国や郷土の伝統を継承することは、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術などを大切にし、それらを次代に引き継いでいくということである。伝統と文化を大切にすることは、過去から現在に至るまでに育まれた我が国や郷土の伝統と文化に関心をもち、それらと現在の自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものである。

第6学年の指導に当たっては、先人の生き方を通して、文化について考え、文化や伝統を守り抜く困難さや情熱を感じ、受け継がれている地域の伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

伝統や文化を守るための先人の努力を知り、伝統や文化を大切にしようとする心情を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①国語科「春はあけぼの」

伝統や文化を大切にしようとする心情を育てるために、社会科との関連を図りながら平安時代の文化の一つである仮名文字の文学に親しむ学習活動を行った。児童は、仮名文字の文学に関心をもち、「季節感」について現在の自分と平安時代との相違点を考え、自分なりの季節感を文章化し交流することにより、時代の変化によって季節感が異なることに気付くことができた。言語文化を受け継いでいく心情については、道徳科でさらに考えを深める指導が必要である。

②社会科「今も受けつがれる室町文化」

伝統や文化を大切にしようとする心情を育てるために、時代ごとの文化の変容に気付かせ、相互の文化を比較する学習活動を行った。児童は、室町文化が繁栄した要因と、「茶の湯」「生け花」「盆踊り」などが現代まで続いてきた要因との関係について考え、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことについて理解するとともに、室町時代から継承されている文化について関心をもち、よさを調べたり、まとめたりすることができた。しかし、伝統を継承しようとすることの大切さについては、自分との関わりでさらに考えを深める指導が必要である。

(3) 教材について【教材観】

伝統や文化を守り、大切にしようとすることのよさや大切さについて、多面的・多角的に考えさせるために、萱野さんの行動への共感度を考え、話し合わせることにより、自分との関わりで深く考えさせる。そのため、一つ目の発問では、萱野茂の立場への共感度を考えることを通して、文化を守り続けることの難しさについて考え、人間理解を深めさせる。二つ目の発問では、萱野茂の行動や気持ちについて話し合い、価値理解、他者理解を深めさせる。また、自分たちも北海道の文化の担い手であることを自覚させ、伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする心情を育てる。

4 ねらい

萱野茂の生き方に触れることを通して、伝統や文化を守るための先人の努力を知り、北海道の伝統や文化を大切にしようとする心情を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 自分の住んでいる地域の文化について発表する。 ○ 自分たちの住む地域には、どのような文化がありますか。 ・お祭り ・アイヌ文化 ・歌舞伎	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、地域の文化を想起する場を設ける。	【工夫①】 ・本時の主題に関わる問題意識をもたせることで主題に対する児童の興味や関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る。
展 開	● 教材「アイヌ文化を守り抜く」を読み、話し合う。 ○ 茂のアイヌ文化に対する生き方への共感度とその理由を考えましょう。 ・共感度は10。自分の文化は大切だと思うけれど、自分で買い戻すことはできないから。 ・共感度は30。大変なことだと思うけど、がんばっていることはすごいから。 ・共感度は60。神社祭りがなくならないように参加しているから。 ◎ なぜ茂は、20年間もアイヌ文化を取り返す活動を続けることができたのでしょうか。 ・伝統や文化は、なくしたら二度と戻らないと思ったから。 ・家族が大切にしていたものを自分も大切にしたいと思ったから。 ・最後まで自分の意思を貫きたいと思ったから。	・「心情メーター」を活用して、茂の生き方に対する共感度とその理由を多面的・多角的に考えるとともに、人間理解を深めるようにする。 ・アイヌ文化を守り続けた茂の行動や気持ちを話し合い、伝統や文化についての価値理解や他者理解を深められるようにする。	【工夫②】 ・自我関与をさせる工夫として、共感できる部分と共感できない部分を、「共感度」として視覚化することにより、考えを深める。 【工夫③】 ・他者と議論することで明らかになった共通点や相違点を分類して板書することにより、より多面的・多角的に考えを深めることができるようにする。
	● 自己を見つめる。 ○ 茂のように守っていききたい地域の伝統や文化には、どのようなものがありますか。また、その理由は何ですか。 ・お祭りや盆踊り。地域の人たちが続けてきた行事などを大切にしたいから。 ・アイヌ文化。アイヌの人たちの生き物を大切にしたいから。 ・自然。地域の豊かな自然は自慢だから。	・自分も地域の文化の担い手であることを振り返り、自己理解につなげる。 ■ 伝統や文化を守り、伝えていくことの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・身近な生活や地域を想起して、大切にしたいことを考えさせることにより、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで考えることができるようにする。
終 末	● 教師の説話を聞く。 ※教師がこれまでの経験から感じた地域独自のお祭りや取組について話をします。	・地域の伝統や文化に目を向け、大切にしたいこうとする実践意欲が育まれるようにする。	

6 板書

7 ノート・ワークシート

【授業実践を振り返って】

「心情メーター」を活用して、登場人物への共感度を0～100で考え、その理由を書き、全体で交流しました。

先人の生き方を通して道徳的価値を学ぶ時、先人と児童との間に距離があり、自分事として捉えるのは難しいことから、共感度という形で考えることで、先人について自分が共感できる部分、できない部分、思いは分かるが自分はできない部分などについて考える機会となりました。

また、共感度が異なる児童同士で交流をすることにより、自分とは違う考えや捉え方に気づき、さらに自分の考えを深める機会になりました。今回の授業では、「共感度が自分と近い人同士」で交流した後に、「共感度が違う人同士」で交流しました。

このことにより、共通点を見つけて考えが補強されたり、相違点を見つけて考えを広げたりすることができました。また、お互いに考えの理由を聞き合うなど、活発な交流となりました。

「きたものがたり」のように先人を扱った教材を使用するに当たり、共感度を用いる手法は、児童が先人に自我関与する機会を与えるとともに、児童同士の交流により、他者理解が深まるなど、効果的な手法だと考えます。